

硬筆アート展総評

この硬筆アート展は、硬筆の主流をなすペンを使って美しい線で端正な文字を表現する「筆具部門」と、毛筆・墨・紙といった書の一般概念を破って、自由な筆具と素材を生かした創造的な文字を追求する「創作部門」とで構成されています。

公募作品が今年は四十四点と例年より少なかったのですが、十二歳から八十九歳までの幅広い年齢層からの出品がありました。

ろうけつ染めに挑戦した浜田の高校生達、流木や竹や草で文字を作る益田のTさん、鯛のウロコで文字や絵を表現する江津のSさんグループなど、一人ひとりが個性的な発想で「文字」のもつ美しさを表現し、書の魅力をいろいろな技法で引き出そうとする創作意欲・向上心が感じられる作品が多く出品されました。

今年は二年に一度の移動展が出雲で開かれます。多くの方に鑑賞いただき、出品してくださる方が一人でも多くなればありがたいです。

文責 森脇東雲

知事賞 「感謝」

梅田 賀千（江津市）

親への「感謝」の気持ちをよく口にする作者は、毎日飲んでいる牛乳パックを筆具に、草書風の感謝を作品にしています。

墨をあまり含まないであろう牛乳パックを破って墨をつけ、紙の向きや動きを工夫しながら、立体的に文字を表現しています。墨の潤渇・濃淡、線の太い細いの変化が絶妙です。開眼の作品となりました。これを機に、益々のご発展をお祈り致します。

文責 森脇東雲

金賞 「鉄道唱歌」

郷原 華梢（出雲市）

ボールペンで爽やかに書かれています。

漢字とかなの調和も良く、最後まで同じ調子で書き上げられました。くしくも今年は、新幹線の開業六十周年、この年に、この「鉄道唱歌」を選ばれたことに感心しました。

筆者に今後望むことは、異なる筆具での挑戦も如何でしょうか。

金賞おめでとうございます。

文責 伊藤松溪

銀賞 「―縁―ENISHI」

鎌田 典子（江津市）

「縁」の字の行書体を緻密に書かれたボタンの花の上に載せてあり、その構図の素晴らしさに感動しました。

又、石州和紙の台紙もアクセントになり全体を引き締めています。

とてもまとまりの良いステキな作品になりました。

今後の作品も大いに期待しております。

文責 石原翠絹

銀賞 「風化」

松尾 純也（出雲市）

波形の段ボールを古いトタンに見立て、長い年月を経てすっかりサビた様子を表した作品はとても斬新です。

風化を意味する WEATHERINGの黄色い文字も、全体の表現効果をあげています。

銀賞おめでとうございました。

文責 石原翠絹

銅賞 「災害に負けないで」

石戸 妙子（江津市）

鯛の鱗を特殊な液で処理され、一枚一枚はりつけ、大変な手作業だったとお察しいたします。

入魂と渴筆もみごとに表現され、細やかな点まで表現された素晴らしい作品です。

鯛も復興を応援していると思います。

ウロコアートの益々の発展をお祈りいたします。

銅賞おめでとうございました。

文責 日下溪扇

銅賞 「般若心経」

島田 洋三（江津市）

「般若心経」全二七六文字を電気ペンを使用され焼文字で楷書で丁寧に仕上げておられます。

字粒適切で整然としており、見る人を落ち着かせ、心が安まります。

銅賞おめでとうございます。

文責 伊藤松溪

銅賞 「和顔愛語」

高橋 宗興（浜田市）

黒い塗りのお盆の中に、乾麺のスパゲッティに絵の具で色をつけ、細かくカットして貼りつけ「和顔愛語」を表現しました。

細い面の細かなカットで、行書のやわらかい筆使いを表現し、微妙な色合いの変化でやさしさやわらかさを表現しています。

作者の人柄を感じさせるステキな作品に仕上がりました。

文責 伊藤紅水